

「食の安全・安心」が
家族の笑顔をつくる

ヨコレイ NOTE VOL.15

第68期報告書

(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

トップインタビュー・財務ハイライト P1

ヨコレイの食品販売事業 P3

営業の概況・事業別の概況 P5

連結財務諸表(要約) P6

News & Topics P7

ヨコレイのグリーン経営 P9

会社情報 P10



「Flap The Wings 2017」の目標達成に向けて 中計方針に基づく取り組みを加速します。

Q 当期(第68期)の営業状況と業績について お聞かせください。

冷蔵倉庫事業は新設物流センターの稼働などにより増収・減益。食品販売事業は下期から回復に転じました。

全般的には、冷蔵倉庫事業が各物流拠点の順調な稼働により概ね期初の計画通りに推移した一方、食品販売事業が円安による厳しい商環境を強いられ利益面で苦戦しました。

冷蔵倉庫事業は、国内全体のタイトな在庫状況を受け、昨年10月に立ち上げた都城第二物流センターを含め、前期から当期にかけて新設した物流拠点がほぼフル

稼働となり、業績に大きく寄与するとともに、既存拠点も在庫量を伸ばしました。またタイ事業においても、前期に新設したワンノイ物流センター2号棟がフル稼働となり、単月黒字化を遂げています。今年8月に竣工したバンパコン第2物流センターも好スタートを切りました。しかし、新設拠点の立ち上げ経費や償却負担が増加し、これが減益要因となりました。

食品販売事業は、実需に基づくリスクコントロール体制を定着させ、不採算在庫を圧縮し、下期から利益回復に転じました。しかし通期では、上期の低調な業績が響き、増収・減益となりました。

結果として当期の連結業績は、売上高1,547億67百万

財務ハイライト

ごあいさつ

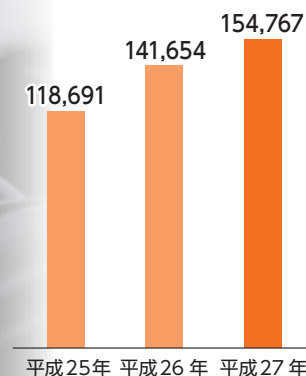
株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第68期(平成26年10月1日~平成27年9月30日)における営業の成果をご報告し、今後の成長に向けた取り組みについてご説明させていただきます。

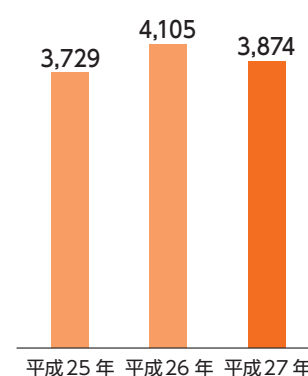
平成27年12月

代表取締役会長 **吉川 俊雄**

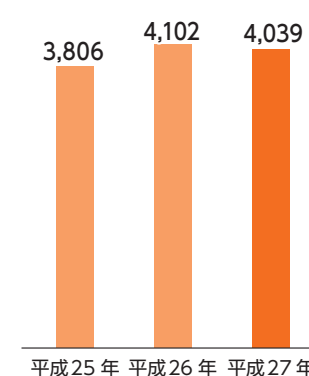
売上高 (百万円)



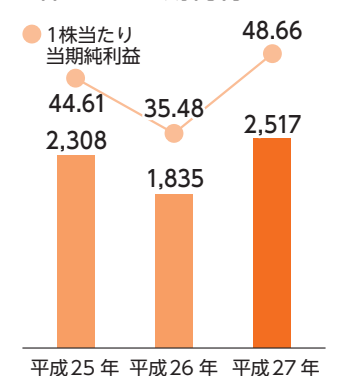
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)



円(前期比9.3%増)、営業利益38億74百万円(同5.6%減)、経常利益40億39百万円(同1.5%減)、当期純利益25億17百万円(同37.1%増)となり、売上高は期初の計画目標に到達したものの、利益面で若干の未達となりました。

Q 中期経営計画初年度の進捗をどのように評価していますか？

定量目標の達成に向けて困難を乗り越えながら前進。中計方針に基づく各事業の体制強化が進んでいます。

第5次中期経営計画「Flap The Wings 2017」では、最終年度(第70期)における売上高1,650億円・営業利益57億円をはじめとする定量目標を掲げており、初年度業績は着実にステップを踏むことができた状況です。

冷蔵倉庫事業では、「保管・物流拠点化、ネットワーク化」という中計方針に対し、物流拠点の拡充とともに広域営業担当部長の専任など機構改革を実施し、提案型営業の推進や、全国展開している大手食品ベンダーへのアプローチなど、積極的な取り組みを開始しています。今期(第69期)は、埼玉県圏央道・幸手インター至近に新規物流センターの着工を予定しており、首都圏の主要幹線道路をカバーすることで、「ネットワークを活かした」冷蔵倉庫への転換を加速していく考えです。

食品販売事業では、「安定的な収益確立のため、取組商売に徹する」ことを中計方針として、顧客ニーズに直結したビジネスによる相場リスクの低減に注力しています。前述の通り、当下期からは利益回復に転じており、リスクコントロール体制が定着しつつあると見えています。グループ内では、海外事業部を子会社アライアンスシーフーズに統合し、輸出入事業を集中・一元化することで、より効率的な事業運営を目指します。なお当事

業は、アライアンスシーフーズを通じてノルウェーの水産加工大手ホフセス社との包括的業務提携を締結しました。今後の販路拡大や商品開発における成果に結び付けていきます。

Q 今期(第69期)の事業展開についてご説明願います。

京浜港湾地区に新たな物流拠点を確保し、貨物が集中する東京湾近郊の収容能力を増強します。

「Flap The Wings 2017」の2期目となる今期は、目標達成に向けて中計方針に基づく取り組みを加速します。

冷蔵倉庫事業は、償却負担の状況を勘案しつつ、さらなる拠点拡充を進めていきます。先に述べました圏央道の幸手物流センター(仮称)に加え、京浜島(東京都大田区)に物流センターを新設すべく、来春の着工を予定しています。貨物が集中する東京湾近郊の収容能力を増強します。業績面では、バンパコン第2物流センターの通年稼働も含め、近年新設した拠点による一層の収益寄与が期待できます。

食品販売事業は、利益回復基調を維持しつつ、引き続き在庫リスクの軽減と戦略商材の販売強化に努め、ホフセス社との提携事業など新たな取り組みを進めていくことで、業績改善を果たしてまいります。

当社は、今般導入されたコーポレートガバナンス・コードへの対応を重要な経営課題と捉え、全社横断的なプロジェクトチームにより、各原則に関する指針づくりを進めています。これを通じて経営の健全性・透明性を高め、持続的な企業価値向上を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社はこれまで株主の皆様やステークホルダーの方々を支えられ、順調に成長してまいりました。特にこの10年間は吉川会長の陣頭指揮のもと、大きく業容を拡大することができました。今期は第5次中期経営計画(3カ年)の2年目、また創業70周年を2年後に控えた重要な年度となります。このような時期に社長を拝命し、責任の重大さに身の引き締まる思いではありますが、精一杯、精進してまいります。

冷蔵倉庫事業は、中期経営計画の施策を確実に推進するとともに物流拠点新設も進め、力強い成長と確固たる地位を確立していきます。食品販売事業は、強みのある商材を営業展開するとともに、グループ各社と連携して飛躍を目指していきます。

ザ・ヨコレイの魂を肝に銘じ、「会社は社会の公器、利益は奉仕の尺度」という創業以来のポリシーを持って、次のステージに向かい力強く歩んでまいります。今後とも末永いご支援をお願いいたします。

代表取締役社長

西山 敏彦



ヨコレイの食品販売事業

～「食の安全・安心」を提供する食品販売事業～

食品販売事業では、経験豊かな営業担当者が国内・海外より選りすぐりの食材を仕入れます。「安全・安心」の食材はヨコレイのネットワーク・ノウハウを経て、皆様の食卓に並べられます。

輸入(通関)

海外から日本へ貨物船を使って輸送します。



流通・販売へ進む →

海外



社員自らが現地へおもむき、その目で厳選した食材を仕入れます。

輸入(通関)へ進む →

国内



日本全国の生産地に営業拠点を構え、地の利を活かした食材調達を行います。

仕分け・加工・凍結へ進む →

仕分け・加工

用途に合わせて仕分け・加工を行い鮮度



仕分け



加工

流通・販売

販売先の地域や業種によって異なるニーズに柔軟で迅速な対応を行います。

食卓へ進む➡

食卓

皆様の食卓に「安全・安心」な食材を安定的に供給します。



凍結

そのままに凍結します。



凍結

流通・販売へ進む➡

ヨコレイのチカラを集結し、
第5次中期経営計画「Flap The Wings 2017」を
達成いたします

ヨコレイの目指す姿（冷蔵倉庫事業）

クールネットワークのリーディングカンパニー

COOL

Comfort & Originality Outsourcing Logistics

● 定量目標（最終年度連結業績）

売上高 255 億円 営業利益 56.6 億円

方針

保管・物流拠点化、全国ネットワーク化を進めることにより、顧客に最適物流を提供する

ヨコレイの目指す姿（食品販売事業）

安定的な利益追求を基本としながらも、
強みのある商材を全社的に展開

● 定量目標（最終年度連結業績）

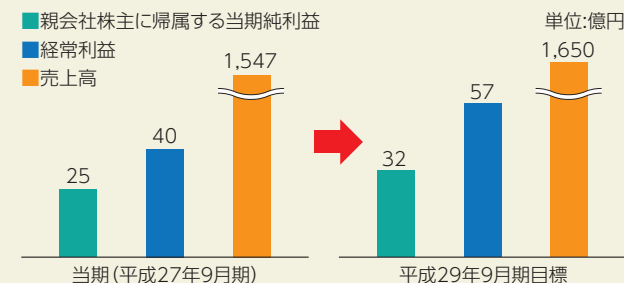
売上高 1,393 億円 営業利益 20.6 億円

方針

安定的な収益確立のため取組商売を徹底する

定量目標（最終年度連結業績）

	平成29年9月期
売上高	1,650億円
営業利益	57億円
経常利益	57億円
親会社株主に帰属する当期純利益	32億円
自己資本利益率(ROE)	5.1%
配当性向	40%以上
EBITDA	100億円
自己資本比率	52.0%



営業の概況・事業別の概況

営業の概況

当期の概況

食品関連業界は、消費停滞に回復の兆しが見え始めたものの、円安や原材料高騰などの影響が残り、依然厳しい状況で推移。

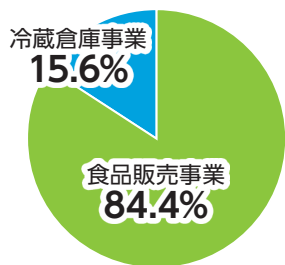
冷蔵倉庫事業は、新設物流拠点順調稼働し、経費の大幅な増加を概ね吸収したものの、計画値には若干の未達。

食品販売事業は、急激な円安により輸入商材の利益率が大きく悪化。不採算在庫の圧縮と戦略的商材の積極販売を推進し、下期からは回復基調に転化。

事業別売上高構成比

当期（平成27年9月期）
売上高合計

154,767百万円



今期の見通しと業績予想

冷蔵倉庫事業は、将来に向けて重点地域への設備増強を進めていきます。食品販売事業は、引き続きリスクコントロールを強化し、メリハリある商売を展開する一方、子会社に統合した海外事業部門の販路拡大を目指します。

通期の連結業績については、以下の通り予想します。

売上高	1,600	億円
営業利益	50	億円
経常利益	50	億円
親会社株主に帰属する当期純利益	31	億円
1株当たり当期純利益	59	円91銭

事業別の概況

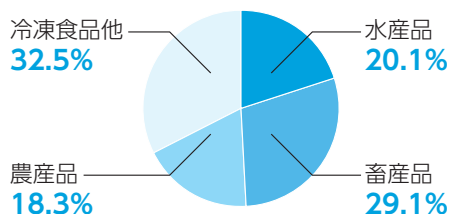
冷蔵倉庫事業

新設物流拠点の減価償却負担増等が響いたものの、実勢は収益拡大基調を維持。入庫取扱量は前期比約46千トン増加、出庫取扱量は同約30千トン増加。平均保管在庫量は同8.0%増。

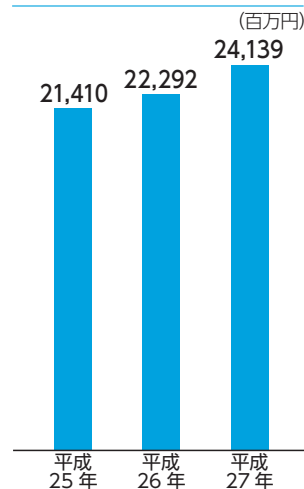
タイヨコレイ(株)は、前期新設のワンノイ物流センター2号棟がフル稼働。他の拠点も高水準の在庫を維持し、順調に推移。

当事業の業績は、売上高24,139百万円(前期比8.3%増)、営業利益4,748百万円(同0.9%減)の増収微減益。

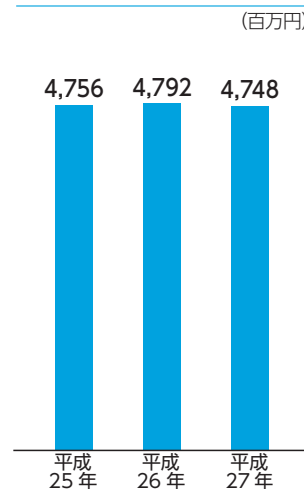
当期在庫量目別割合



売上高



営業利益



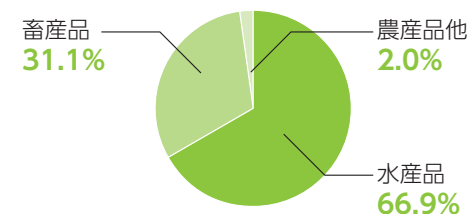
食品販売事業

水産品は、メリハリある販売戦略が奏功し、増収増益。ホタテ・カニ・サバ等は取扱量増加とともに輸出を促進、ウナギも適正在庫の確保と着実な販路拡大により利益貢献。

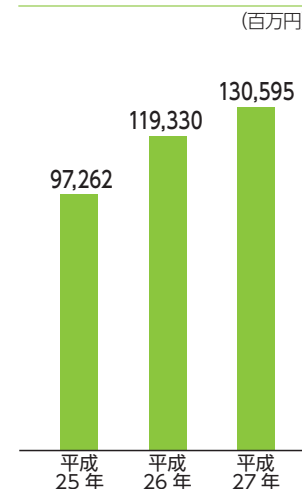
畜産品は、高値基調が続く、利益率が悪化したことから増収減益。農産品は、天候不順で取扱いが減少し、減収減益。

当事業の業績は、売上高130,595百万円(前期比9.4%増)、営業利益1,189百万円(同7.5%減)の増収減益。

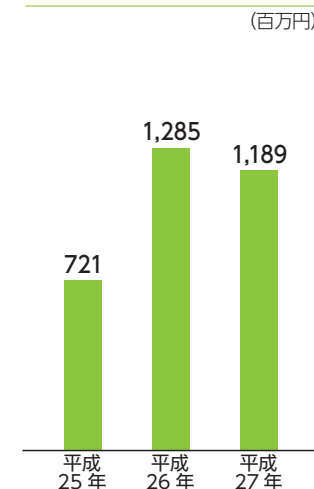
当期品目別売上高構成比



売上高



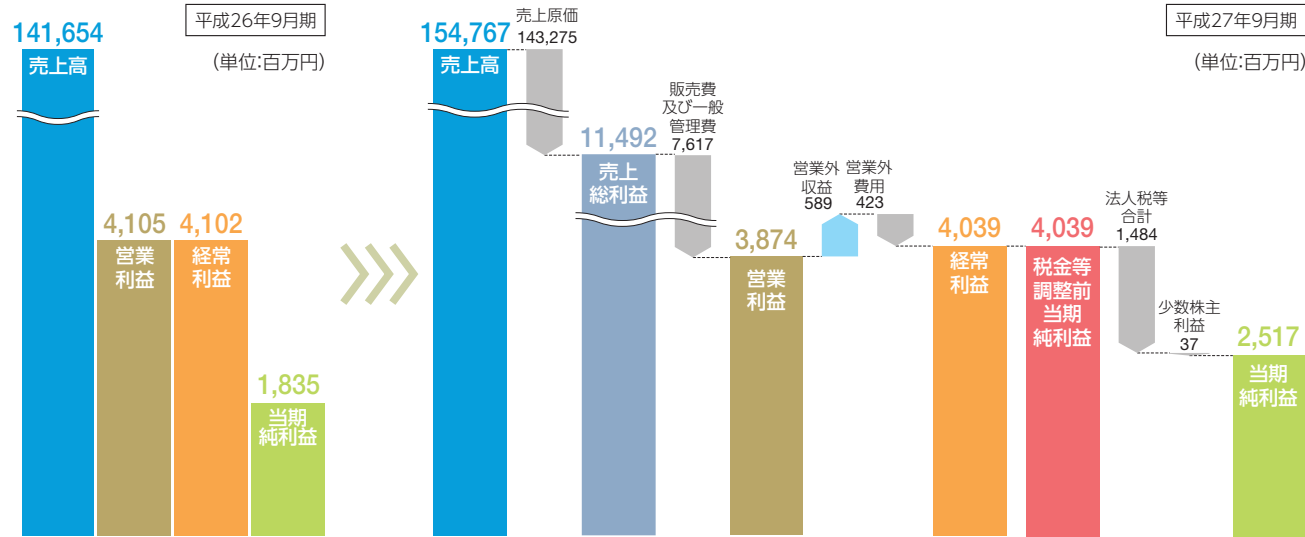
営業利益



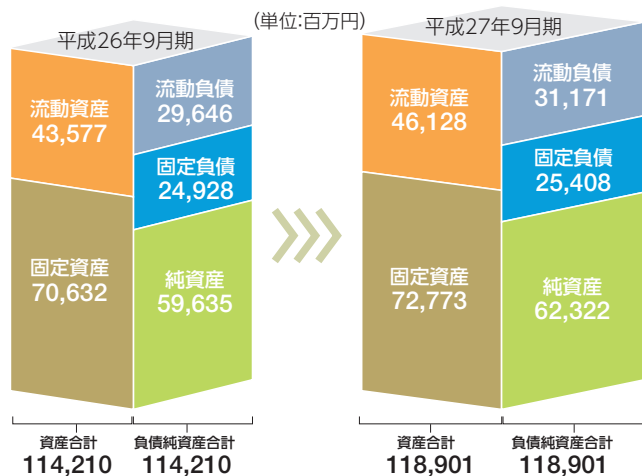
連結財務諸表(要約)

連結財務状況

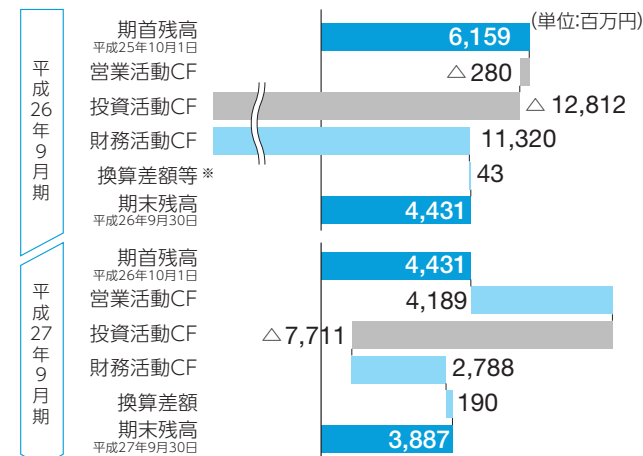
◆ 損益の状況



◆ 資産・負債・純資産の状況



◆ キャッシュ・フローの状況



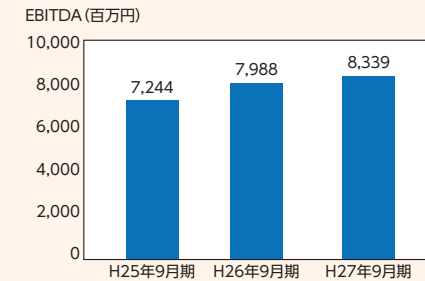
* 換算差額 + 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額



もっとくわしく!

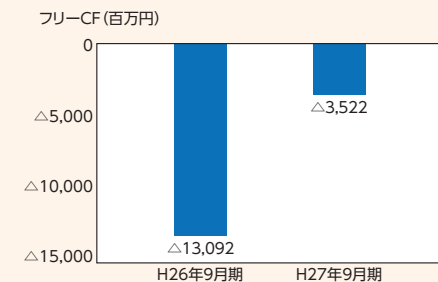
POINT 1 EBITDAが順調に伸長

営業利益に減価償却費を加算したEBITDAは、積極的に設備投資を実施している企業の、収益の実勢を見定めるための指標です。昨年度に比べ351百万円増加し、中期経営計画で掲げる100億円の目標に向けて順調に伸長しています。



POINT 2 フリーキャッシュ・フローの大幅改善

営業CFに投資CFを加算した、経営状況の判断指標であるフリーCFが大幅に改善しています。これまでの投資活動の効果が出始め、昨年度と比較し営業CFが42億円のプラスに転じ、全体のフリーCFも96億円改善しました。



冷蔵倉庫事業

■ 都城第二物流センター竣工

宮崎県の都城物流センター隣接地に建設を進めていた同第二物流センターが竣工しました。18,220トンの冷蔵収容能力を有し、自然対流方式のRD(リターンダクト)冷却方式など、多くの先進技術を導入した施設です。



2014年
10月

2015年
2月

2015年
4月

2015年
5月

2015年
6月

2015年
7月

2015年
8月

2015年
9月

食品販売事業

■ 欧州シーフード・エキスポに出展

ベルギー・ブリュッセルで開催された「欧州シーフード・エキスポ」に出展しました。世界中から72カ国1,866社が参加する中で、当社グループが展開する幅広い食品販売ビジネスを紹介し、商機の拡大につなげました。



■ 全社

■ タイで海洋環境保全ハンドブック発行

当社によるタイの天然資源・環境省への寄付金を活用した現地小中学生用教材「海洋環境保全のためのハンドブック」が発行されました。10月には当社吉川社長が同国大使館のシハサック特命全権大使を表敬訪問し、寄贈式が行われました。



食品販売事業

■ ホフセスグループとの業務提携

当社グループは、ノルウェーの大手水産加工会社ホフセスインターナショナルとの業務提携を締結しました。同社を通じて良質なアトランティックサーモンの加工品を安定的に調達し、日本国内および北米・欧州の大手量販店向けに販路を開拓します。



冷蔵倉庫事業

■ タイヨコレイ設立25周年式典を開催

バンコク市内のホテルにて、タイヨコレイ設立25周年式典を開催し、総勢180名が参加されました。吉川社長からタイ王室財団へ、同国への感謝と友好の証として250万パーツが贈呈されました。



詳しくは
P8
PICK UP

冷蔵倉庫事業

■ 十勝第三物流センター(仮称)着工

北海道の十勝物流センター隣接地に新設する十勝第三物流センター(仮称)の起工式を行いました。3センター合計の収容能力は61,000トンを超え、道内最大級の低温物流基地となります。竣工は2016年8月の予定です。



冷蔵倉庫事業

■ パンパコン第2物流センター竣工

タイ・チャチュンサオ県のパンパコン物流センター敷地内で建設を進めていた同第2物流センターが竣工しました。最新設備をフルに活かし、現地で求められている高度な低温物流ニーズに応えます。



詳しくは
P8
PICK UP

冷蔵倉庫事業

■ 各国政府・民間視察団による施設見学

メコン4カ国政府・民間業者をはじめ、国内外の政府関係者や民間業者ら総勢9カ国161名が当社施設を訪れ、最新鋭の設備や環境に配慮した取り組みを視察しました。



■ 新物流センター(京浜島・幸手地区)稼働に向けての取り組み

今後のフリートレード時代を見据えた戦略拠点として、国内最大の貨物集積地である東京都大田区京浜島に新物流センターの建設用地10,900㎡を取得契約しました。また、2016年4月には埼玉県幸手地区に新物流センターを建設予定です。

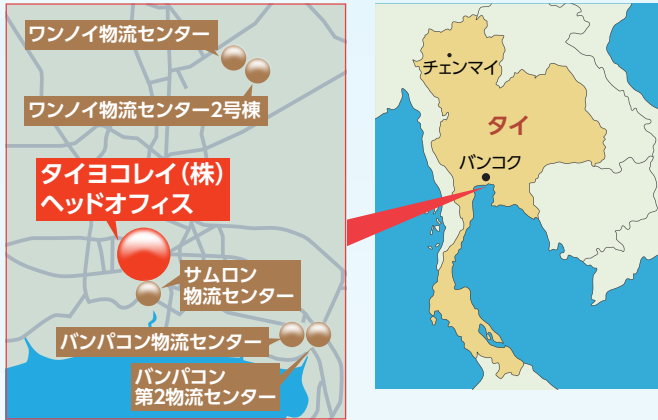


PICK UP

タイヨコレイ25周年

拡大するタイの冷蔵倉庫・物流需要を取り込み躍進！

現地No.1の冷蔵・冷凍倉庫企業として市場をリード



総庫腹量約9万6千トン、盤石のトップシェア

タイでは、東南アジアの中でもとりわけ急速な経済成長に伴い、低温物流のニーズが高まっています。当社は、1989年12月に現地子会社タイヨコレイ(株)を設立し、サムロン、バンパコン、ワンノイの3エリアに物流拠点を設置してきました。その収容能力は、今年8月に同国7棟目の冷蔵倉庫「バンパコン第2物流センター」が稼働したことで、総庫腹量約9万6千トン規模に拡大し、トップシェアを盤石なものにしました。

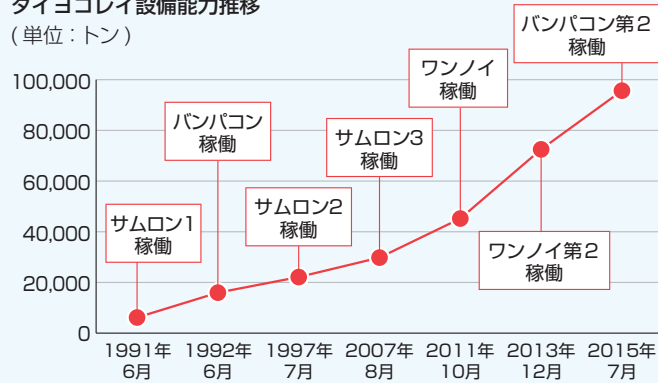
タイヨコレイ(株)では、経営の現地化を推進しつつ、社員オペレーションを基本とする「ヨコレイ品質」と、最新設備による安定的なサービスを提供することで評価を高め、業績を着実に伸ばしています。

合併運送事業の物流品質が高評価

近年、タイでは生活水準の向上とともに「食の安全・安心」への意識が高まり、より高品質なサービスを提供する物流インフラが求められるようになってきました。こうしたニーズに対応すべく、当社とタイヨコレイ(株)は、2011年(株)日新とともに合併会社ベストコールドチェーン(株) (以下、BCC) を現地に設立しました。

食品の輸送・配送事業を手掛けるBCCは、最新の設備・車両を駆使した高度な品質管理能力が評価され、受託件数を拡大中です。その需要は、川上の原料系貨物だけでなく、川下の小口配送まで拡がりつつあります。

タイヨコレイ設備能力推移
(単位：トン)



Comment

さらなる成長が期待できるタイ市場

タイヨコレイ(株)では、畜産品の取り扱いが過半を占めていますが、今後は果汁や乳製品、冷凍食品など流通・内需向けが大きく増えていく見込みです。これまで全体の1割程度だった内需向け低温物流貨物の割合は、ここ数年で2~3割に拡大してきました。商品管理など、ソフト面の品質の高さで他社との差別化を図り、市場の成長を積極的に取り込んでいく考えです。

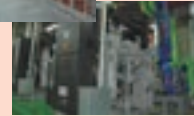
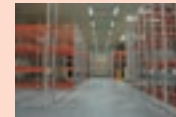
タイヨコレイ(株) 取締役会長 竹村 文男



Feature

バンパコン第2物流センターが稼働 最新鋭の冷却保管機能と大規模な太陽光発電設備

バンパコン第2物流センターは、当社の冷蔵保管ノウハウをフルに活かした、収容能力2万3千トンの最新型物流センターです。迅速・正確な入出庫を実現する電動式移動ラックや、アンモニア/CO₂併用の高効率自然冷媒冷凍機など、最先端の冷却保管機能を配備。屋上と壁面には、発電能力583.1キロワットの太陽光発電システムを設置し、環境対応も万全です。



企業の自主的で継続的な環境保全活動を促進するグリーン経営認証制度。

私たちはその取り組みを通じて、「人」「もの」「地球」に優しい食品流通のエキスパートを目指します。

全国39事業所で グリーン経営認証を取得

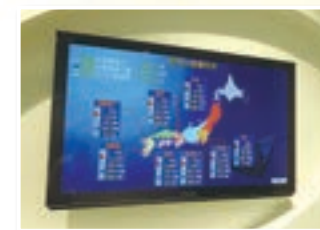
当社は、2007年からグリーン経営の認証取得に向けた取り組みを開始し、これに基づく活動を実践しています。「物流事業を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、地球環境に配慮した事業運営を目指す中で、従来取り組んできた5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動や安全活動とも整合性が高いグリーン経営認証に着目し、「社員にとってわかりやすい」と判断しました。現在、新設を除く全国39カ所の事業所で同認証を取得しています。

多忙な現場の社員にも活動が浸透しやすいように、手のひらサイズの「グリーン経営ハンドブック」を作成・配布したり、各事業所の取り組みの長所を相互に採り入れたりするなど、工夫をしています。

電気使用量削減と 廃棄物の適正処理に注力

グリーン経営の取り組みの中で、当社が特に重視しているのが「電気使用量の削減」です。省エネ設備・機器の導入、業務の効率化、施設・設備の保守点検等によって電気使用量を抑えるべく、ハード面の拡充とともに、ルールに則った作業の習慣付けなどソフト面の強化にも努めています。「廃棄物の適正処理」も力を入れている取り組みテーマです。法令違反へのペナルティも重く、企業としてのリスクが高い廃棄物の取り扱いについては、自治体ごとに異なる規定や、処理業者に交付される許可証、契約書、マニフェストなどの確認事項を徹底しています。

今後、社員へのグリーン経営のさらなる浸透を図っていきます。



1. エネルギー

- 電気使用量等の目標設定
- 省エネ設備・機器の導入
- 業務の効率化
- 施設・設備の保守点検

2. 廃棄物

- 廃棄物に関する教育
- 廃棄物の抑制・リサイクル
- 廃棄物の適正処理

3. 事務所の活動

- エコマーク製品の購入
- 紙使用量の削減
- 不要照明の消灯
- 分別BOXの設置
- 室温の適正温度化
- 使い捨て製品の削減

グリーン経営とは？

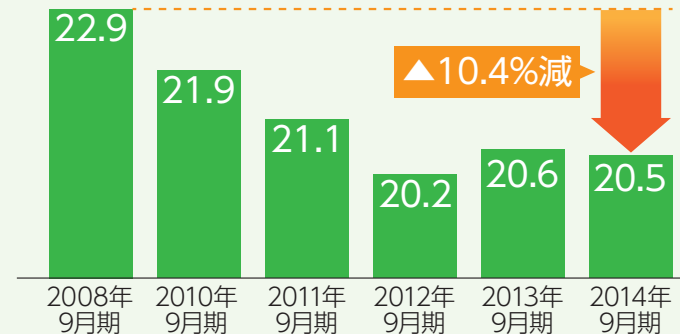


グリーン経営とは、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団法人を認証機関として、「グリーン経営推進マニュアル」に基づき、事業活動における環境負荷の低減に取り組んでいる事業所を認証する制度です。環境改善に向けた取り組みの目標設定とその評価が容易であり、事業者の実態に合った形で、自主的かつ継続的な環境保全活動を行うことができます。

グリーン経営導入後の実績

当社の年間電気使用原単位（年間電気使用量÷年間貨物取扱量）について、2014年9月期とグリーン経営認証取得前年度の2008年9月期を比べてみると、6年間で貨物取扱量が19.9%増加したにもかかわらず電気使用量の増加を7.1%に抑えた結果、電気使用原単位は10.4%の大幅な減少を遂げています。引き続きエネルギー効率の改善に向けて、全社的な活動を進めていきます。

電気使用原単位の推移 (単位:kWh/トン)



会社情報

会社概要 (平成27年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社
 本社所在地 〒220-0012
 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
 みなとみらいブランドセントラルタワー7階
 TEL: 045-210-0011 (代表)
 FAX: 045-210-0018
 設立 昭和23年5月13日
 資本金 11,065,926,625円
 従業員数 連結 1,395名 単独 1,059名
 業務内容 1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
 2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
 3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
 4. 不動産賃貸業
 5. 通関業
 6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
 7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
 8. その他前各号に付帯関連する一切の事業
 (定款における事業目的)

役員および執行役員 (平成27年12月22日現在)

代表取締役会長	吉川 俊雄	常勤監査役(社外)	田中 明彦
代表取締役社長	西山 敏彦	常勤監査役(社外)	阿部 博康
常務取締役	岩渕 文雄	監査役(社外)	棚橋 栄蔵
常務取締役	井上 祐司	監査役(社外)	西元 徹也
取締役	松原 弘幸	執行役員	飯島 敏正
取締役	千田 重賢	執行役員	岩倉 正人
取締役	越智 孝次	執行役員	藤五 俊治
取締役	花澤 幹夫	執行役員	安田 正美
取締役	池田 浩人	執行役員	車谷 哲男
取締役	野崎 博嗣	執行役員	内山 卓爾
取締役(社外)	加瀬 兼司	執行役員	吉田 豊
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	古瀬 健児
		執行役員	鈴木 大介

ネットワーク (平成27年12月22日現在)

冷蔵倉庫事業 43拠点

北海道・東北ブロック

十勝物流センター
 十勝第二物流センター
 石狩物流センター
 石狩第二物流センター
 喜茂別物流センター
 八戸物流センター
 気仙沼冷凍工場
 仙台物流センター

関東ブロック

加須物流センター
 加須第二物流センター
 鶴ヶ島物流センター
 伊勢原物流センター
 東京物流センター
 東京第二物流センター
 大黒物流センター
 横浜物流センター
 子安物流センター
 山内物流センター

中京・東海ブロック

沼津物流センター
 大井川物流センター
 小牧物流センター
 名古屋物流センター
 中川物流センター

阪神ブロック

夢洲物流センター
 北港物流センター
 舞洲物流センター
 西淀物流センター
 神戸物流センター
 六甲物流センター

九州ブロック

福岡物流センター
 箱崎物流センター
 鳥栖物流センター
 鳥栖第二物流センター
 唐津冷凍工場
 長崎冷凍工場
 佐世保冷凍工場
 都城物流センター
 都城第二物流センター
 志布志物流センター
 鹿児島物流センター
 川辺物流センター
 枕崎冷凍工場
 山川冷凍工場

食品販売事業 19拠点

十勝営業所
 札幌営業所
 八戸営業所
 気仙沼冷凍工場
 仙台営業所
 茨城営業所
 銚子営業所
 東京営業所
 畜産営業部
 沼津営業所
 名古屋営業所
 大阪営業所
 福岡営業所
 松浦駐在
 唐津営業所
 長崎営業所
 佐世保冷凍工場
 枕崎冷凍工場
 鹿児島駐在

連結子会社

株式会社アライアンスシーフーズ
 株式会社クローパートレーディング
 Thai Yokorei Co.,Ltd. (タイ)
 ワンノイ物流センター
 ワンノイ物流センター2号棟
 パンパコン物流センター
 パンパコン第2物流センター
 サムロン物流センター
 Best Cold Chain Co.,Ltd. (タイ)

非連結子会社

Yokorei Co., Ltd. (タイ)

株式の状況 (平成27年9月30日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株
 発行済株式の総数 52,450,969株
 株主数 13,254名

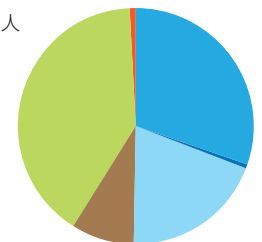
大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	2,205	4.23
株式会社横浜銀行	2,176	4.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,130	4.08
農林中央金庫	1,473	2.82
株式会社八丁幸	1,411	2.70
横浜冷凍従業員持株会	1,140	2.18
株式会社松岡	1,034	1.98
株式会社サカタのタネ	1,022	1.96
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	936	1.79
横浜振興株式会社	892	1.71

(注) 持株比率は自己株式(332,188株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

■ 金融機関 15,948千株 30.4%	■ 外国法人・外国人 4,625千株 8.8%
■ 金融商品取引業者 306千株 0.6%	■ 個人・その他 21,098千株 40.3%
■ その他の国内法人 10,138千株 19.3%	■ 自己名義 332千株 0.6%

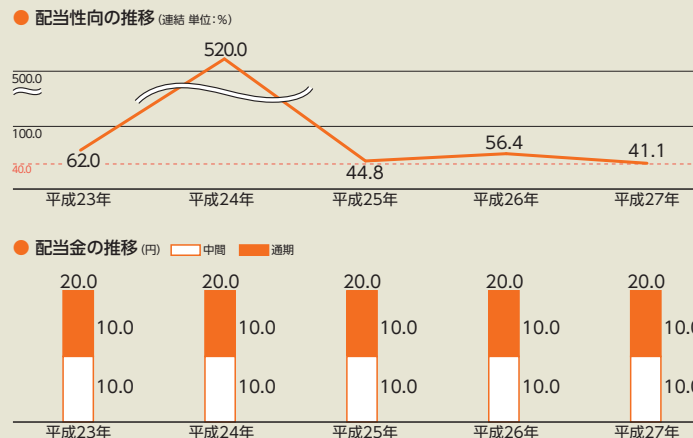


株主還元方針

配当金・配当性向

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営目標の1つとして認識し、配当性向40%を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

この方針に基づき、当期の期末配当金は、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。



(1) 1,000株以上~3,000株未満
保有の株主さま

「ノルウェーサーモン詰合せ」
アトランティックサーモン切身皮付き (約450g)
アトランティックサーモン切身皮無し (約450g)
スモークサーモン (50g×3パック)



(2) 3,000株以上 保有の株主さま

「北海道産のホタテ・いくらセット」
いくら醤油漬け(500g)、
生食用ホタテ貝柱(1,000g)



株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
電子公告	
公告の方法	※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 http://www.yokorei.co.jp/irnews/
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所 (第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

▶ <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介します。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

